

(様式)

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム
研究者派遣プログラム

成果報告書

提出日：平成 26 年 2 月 12 日

| 1. 渡航者 | | | |
|--|---|------|----------|
| 氏 名 | 辻 大和 | 採択年度 | 平成 25 年度 |
| 部 局 | 霊長類研究所 | 電 話 | |
| 職 名 | 助教 | メー ル | |
| 研究課題名 | 野生ジャワルトンの生態・社会の解明に関する国際共同研究 | | |
| 海外渡航期間 | 平成 25 年 6 月 15 日～平成 25 年 12 月 24 日 | | |
| 2. 渡航に関する情報 | | | |
| 渡航先 | 国名：インドネシア共和国 大学等研究機関名：ボゴール農科大学 研究室名等：理学部生物学教室 受入研究者名： Bambang Suryobroto 講師 | | |
| 渡航期間中の 出張 (渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。) ※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。 | 出張先：シンガポール 目的：シンガポール動物園でのコロブス類の観察と研究連絡 期間：2013. 6. 14-2013. 6. 17 出張先：マレーシア (クアラルンプール・ボルネオ島) 目的：ノッチングム大学の研究者との研究連絡・キナバタンガン川に生息するシルバールトンの行動観察および研究連絡 期間：2013. 8. 13-2013. 8. 20 出張先：バリ島・ロンボク島 目的：西バリ国立公園・リンジャニ山周辺に生息するジャワルトンの行動観察およびマタラム大学での文献調査・研究連絡・学生向けの講義 期間：2013. 9. 9-2013. 9. 16 出張先：ジョグジャカルタ 目的：ガジャマダ大学を訪問、研究連絡および文献調査 期間：2013. 9. 21-2013. 9. 24 出張先：日本 (一時帰国) 目的：鳥取大学乾燥地研究センターで開催された研究報告会への参加・発表 期間：2013. 12. 5-2013. 12. 8 出張先：タイ (バンコク) 帰国時のトランジットを利用した訪問 目的：2013. 12. 22-2013. 12. 24 期間：ドゥシット動物園でのコロブス類の観察と研究連絡 | | |

| | |
|--|---|
| | |
| <p style="text-align: center;">3. ジョン万プログラムによる成果</p> <p>以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。 ページ数については増加してもかまいません。</p> | |
| <p>国際共著論文の執筆 (論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等)</p> | <p>今回の渡航により、インドネシア西ジャワ州・パンガンダラン自然保護区に生息するジャワルトンに関する基礎的情報の収集を、ほぼ完了できた。来年度以降に、以下のテーマに関して受け入れ研究者と共に論文の執筆作業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ルトンの土地利用様式 2. ルトンの食性と食物の利用可能性との関連 3. ルトンの活動時間配分とフェノロジーの関連性 4. 同所的に生息する他種の哺乳類（カニクイザル、シカ、ヒヨケザル）との種間関係 5. 植物のフェノロジーと各種生態の関連性 6. ルトンによる種子散布 7. ルトンの移出入と群れの維持機構 |
| <p>更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ／実施 (国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等)</p> | <p>今回のプログラム期間中、インドネシアの中部ジャワ州・バリ島・ロンボク島、マレーシア半島部およびボルネオ島を訪問し、それぞれの場所の霊長類研究者と共同で、ルトン類の生態の地域変異についての研究の実施について研究連絡を行った。</p> <p>インドネシアとその周辺国の研究者との間でネットワークを構築することができたため、今後は、ジャワルトンをはじめとするアジア産コロブス類の食性・食物選択性・活動性の地域変異をもたらす生態・社会的要因の解明を目指した共同研究を実施する。コロブスに関する国際共同研究を実施するために、文部科学省の科学研究費補助金（若手B）に現在応募中である。今後、民間の外部資金についても可能な限り応募し、さらなる研究費の獲得につとめる。</p> |
| <p>国際研究ネットワークの新規構築／深化 (参加した学会やその他の学術・交流組織、そこから構築／深化した研究ネットワークの内容等)</p> | <p>受け入れ研究者の属するポゴール農科大学では大学院生向けのセミナーを、研究打ち合わせのために訪問したロンボク島のマタラム大学では、学部生・大学院生向けに採食生態学の講義を行うなど、インドネシアで霊長類に関心を持つ学生との交流を積極的に行った。ポゴール農科大学の学生に対しては、非公式に研究の助言も行った。プログラム期間中に短期訪問したジョグジャカルタのガジャマダ大学、およびマレーシアのノッチンゲン大学では、霊長類を研究している大学院生と、将来の共同研究を視野に入れた情報交換を行った。</p> <p>本プログラムを通じたインドネシア人研究者・大学院生との交流は、その後の日・印の研究者との国際共同研究の機会を増加させると考えられ、将来的には、インドネシアからの京都大学への留学生の受け入れにもつながると考える。申請者は、今後も両国の研究協力関係の維持、ならびに両国の国際的な情報発信力の強化に貢献したい。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>在外研究経験 による研鑽</p> <p>(渡航先機関で得た 研究の展開方法、研究 室の運営方法、教育方 針・人材育成方法等)</p> | <p>調査地では、受け入れ研究者の Bambang Suryobroto 講師が調査地の関係者と円滑な関係を築いていたため、長期野外調査の実施はきわめてスムーズだった。調査地における、人間関係の重要性を再認識することができた。受け入れ研究者の B. Suryobroto 講師は、学生の自主性を重視する人物で、研究活動は学生自身の希望を最大限実現できるように、かつ国際的な展開ができるよう積極的にサポートを行っており、申請者の今後の研究室運営に参考になる点が多かった。指導学生を国際学会や留学に送り出し、最新の情報を積極的に取り入れようとする姿勢は、ぜひとも参考にさせてもらいたい。</p> |
| <p>フィールド研究 の進展</p> <p>(渡航先国で実施した 実地調査や文献調査 等の内容)</p> | <p>フィールド調査：西ジャワ州・パンガンダラン自然保護区でジャワルトンの野外調査を実施した。各月に2週間程度の終日観察を実施し（合計観察時間：77日、768時間）、①活動時間配分、②食性、③土地利用、④群れ内外の個体間交渉、⑤他種との関係などのデータを収集した。同時に、森林環境の情報として⑥調査地のフェノロジー調査、⑦調査地の植生調査、⑧ルトンが採食した植物サンプルの採集を実施した。共同研究者とともに、ルトンの糞サンプルを収集した。</p> <p>インドネシアの研究者との交流：ポゴール農科大学およびロンボク島・マタラム大学にて同大の学部生・大学院生向けに『霊長類学』の講義を行った。また、マレーシアのノッチングム大学およびジョグジャカルタのガジャマダ大学を訪問し、霊長類の研究を行っている学生と交流するとともに、ジャワルトンに関する文献調査を行った。</p> |